

20:19



入手



共有



配信



維持・確保



訓練

インフォメーション  
テクノロジー

# IT × 減災

((( 進化する！ IT 減災 )))  
備えるための情報技術、最先端

Evolutionary IT technology!  
The cutting edge of IT technology for disaster preparation.

2019  
2/5 火 → 7/17 水

企画展 減災グッズ展 vol.7 IT "Gensai" Exhibit.

会場：西館 2F 防災未来ギャラリー



<https://hitobou.com/goods/190205/>  
当企画展特設サイト

主催：  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター  
協力：  
神戸市建設局、総務省地域通信振興課、  
製品展示協力企業・団体各社（詳細裏面）、  
防災企業連合 関西そなえ隊

検索

ひとぼう

www.dri.ne.jp

お問い合わせ：【観覧案内】 TEL 078-262-5050 FAX 078-262-5055

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

- アクセス / (鉄道) 阪神電鉄「岩屋」駅「春日野道」駅から徒歩約10分  
JR「灘」駅から徒歩約12分
- 駐車場 / 有 (総台案内での駐車券提示による観覧者割引有)  
(車) 阪神高速道路神戸線「鷹取」ランプから約4分、「生田川」ランプから約8分

● 入館無料日 / 毎月17日 ※17日が休館日の場合は翌日が対象となります。

阪神・淡路大震災記念  
DRI 人と防災未来センター

- 営業時間 / 9:30～17:30(入館は16:30まで)  
ただし7～9月1は9:30～18:00(入館は7:00まで)
- 休館日 / 金・土・曜日は通常9:30～19:00(入館は18:00まで)  
毎週月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌平日)、12月31日～1月1日
- 入館料金 / 大人600円、大学生450円、高校生以下無料  
障がい者、70歳以上の高齢者は証明書提示により割引有

# IT × 減災

((( 進化する！ IT 減災 )))  
備えるための情報技術、最先端

企画展 減災グッズ展 vol.7

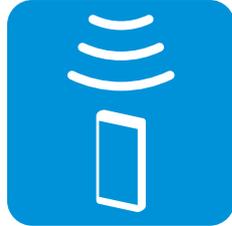
スマートフォンが普及し、IT 技術が身近な生活に浸透した現在、情報の配信、収集、共有は驚くほど迅速で、容易になっています。防災・減災を進めるうえで、これらの技術・インフラをどのように活用できるのでしょうか。

この展示では、IT 技術の防災・減災分野への活用の現状を紹介しつつ、情報収集・通信・コミュニケーションを、私たちのいざというときのために、またその備えのためにどう活用していけるのかを考えます。また、この IT 技術を活かし、実際に防災・減災分野で具現化されている技術・製品などを紹介します。

IT 技術における防災の現在について、5つのテーマで紹介します。  
また、「自然災害に備えるための IT 技術に関する展示製品公募」に  
エントリーいただいた企業・団体による関連製品を現物展示を含め紹介します。

IT  
for  
Disaster  
Reduction

1



情報入手

INFORMATION  
RECEIVING

もしも今、災害、事故などが発生した場合、あなたはどの手段でその緊急情報を入手しますか？身の安全のためにはまずは確かな情報入手がかかせません。ラジオやスマートフォンなど状況に応じた、緊急時の情報入手方法は？



IT  
for  
Disaster  
Reduction

2



安否確認と  
情報共有

SAFETY  
CONFIRMATION &  
INFORMATION  
EXCHANGE

被災時、家族をはじめ、大切な人々が無事であるかを確認しよう安否確認。被災地、被災者、避難所がどのような状況でニーズがあるのか？支援側が求める情報を含め、迅速かつ正確な情報共有の方法は？



IT  
for  
Disaster  
Reduction

3



公共による  
情報配信

PUBLIC  
INFORMATION  
DISTRIBUTION

災害となりえる自然現象を行政や研究所、大学などが常時観測する膨大なデータ。これらを統合・整理し、災害情報や避難情報として、一般に効率よく伝えるための通信システムの整備はどのように進められているのでしょうか？



IT  
for  
Disaster  
Reduction

4



通信維持と  
電源確保

INFORMATION  
NETWORK  
RECOVERY &  
POWER SUPPLY

災害で通信インフラが被害を受け、通常のサービスが利用できなくなる可能性があります。電源の確保にはじまり、情報通信を継続するための対策や備えにはどのようなものがあるのでしょうか？



IT  
for  
Disaster  
Reduction

5



情報を活用した  
訓練

TRAINING USING  
INFORMATION  
TECHNOLOGY

いつ起こるかかわからない自然災害に普段から備えるため、防災訓練にも IT 技術が活用されます。身近なスマホアプリに始まり、最新の VR (仮想現実) や AR (拡張現実) を活用した防災訓練アプリにはどのようなものがあるのでしょうか？



製品展示協力企業・団体各社 (五十音順) :

愛知工科大学工学部 板宮研究室 / イッツ・コミュニケーションズ株式会社 / 一般社団法人 救急医療・災害対応無人機等自動支援システム活用推進協議会 / NTT 未来ねっと研究所 / NTT レゾナント株式会社 / 大阪マルチメディア放送株式会社 / オムロンソーシアルソリューションズ株式会社 / 株式会社構造計画研究所 / 株式会社武揚堂 / 株式会社ラジオ関西 / 株式会社レスキューナウ / 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 矢守研究室 / KDDI 株式会社 / 神戸市市長室広報戦略部広報課 / 国立研究開発法人 情報通信研究機構 / 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 / ソフトバンク株式会社 / タイドドリンク株式会社 / ティ・オール・エイ株式会社 / 東京都総務局総合防災部 / TOA 株式会社 / トーカイセキュリティ株式会社 / 名古屋大学 減災連携研究センター / 西日本電信電話株式会社 / 日本電気株式会社 / 日本無線株式会社 / パナソニック株式会社 / 兵庫県立大学 応用情報科学研究科 有馬昌宏研究室 / ヤフー株式会社 / 有限会社アシストコム / リブリ株式会社